



春夏秋冬全てが楽しい 市民の森・西向沼

今回は、南原を中心に様々な地域活動に携わっている我妻明さんにお話を伺い、週に1度は訪れるという西向沼の魅力を中心にお話いただきました。季節ごとに色々な表情を見せる西向沼では、珍しい動植物を見られます。水上の木や葉に産卵するモリアオガエルや、絶滅危惧種に指定されるヒメサユリ（オトメユリ）、20種類を超えるトンボなど多種多様。夏の西向沼の楽しみ方を伺うと「キャンプです」と意外な答えがありました。広々とした幕営地からは、米沢市街が一望できます。今年のゴールデンウィークには6組ほどがキャンプを楽しんでいたそうです。小野川温泉まで車で20分程度なので、キャンプの合間に温泉を満喫することもできます。

「西向沼はいつ来ても楽しめます」と我妻さんは誇らしげな笑顔を見せます。令和3年11月に西部コミセンと合同で開催した西向沼探検では、思わぬ降雪があるも、参加した子どもたちは大喜びだったそうです。取材当日は本降りの雨でしたが、煙った湖沼が幻想的でした。我妻さんのおススメは、秋の早朝だそうです。

— 第8回 —

わがつまあきら
我妻明さん
(大字李山)

三郎沢山生産森林組合の組合長理事。米沢花いっぱい運動などにも取り組み、昨年は南原地区住民と共に山形県知事賞を受賞しました。

霧が深い秋には、雲海に昇る朝日を西向沼の展望台から一望できます。

市民の森として憩いの場となる西向沼ですが、生態系の保全に注意を払ってご利用ください。山菜等を探るときは、採り尽くすのではなく、残してください。残った株から再生し、来年もまた山菜を楽しめるようになります。

日常の喧騒から離れ、自然の中でリラックスしてみたいかがでしょう。



展望台から米沢市街を一望できる